

◆ 第6学年 ◆

参加人員	平均点
4,811人	70.45点

得点分布表

得点分布	0~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89	90~99	100点	標準偏差	平均点 (点)
百分率 (%)	0.0	0.6	2.2	4.6	5.6	10.9	17.2	17.4	19.4	17.0	5.1	19.28	70.45

問題別正答率

問題番号				観点	正答率	問題番号				観点	正答率
[1]	[あ]		①	知識・理解	75.6	[5]			⑬	思考・判断・表現	68.5
	[い]		②	技能	77.2	[6]			⑭	思考・判断・表現	65.3
	[う]		③	知識・理解	77.6				⑮	思考・判断・表現	33.5
[2]			④	思考・判断・表現	41.0	[7]	ア		⑯	知識・理解	47.5
[3]	[あ]		⑤	知識・理解	43.0		イ		⑰	知識・理解	81.0
	[い]		⑥	技能	78.2		ウ		⑱	知識・理解	95.4
			⑦	技能	76.5		エ		⑲	知識・理解	59.0
	[う]		⑧	知識・理解	89.3						
[4]	[あ]		⑨	知識・理解	90.3						
	[い]		⑩	知識・理解	63.6						
	[う]		⑪	技能	81.2						
			⑫	技能	86.9						

問 題

令和元（2019）年度
奈良県社会科診断テスト問題

第6学年 組 番

名前

点

1 天皇や貴族が政治をしていたころについて、次の問いに答えましょう。
〔あ〕 中臣鎌足とともに、645年に蘇我氏をせめほろぼし、天皇を中心とする国づくりを進めた人物はだれですか。次の①～③の中から正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① 聖徳太子 ② 聖武天皇 ③ 中大兄皇子

答え **③**

誤答例 ②(12.7) (知識・理解) ①

〔い〕 次の資料を見てわかることを、下の①～③の中から正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

各地のおもな特産物と税を都へ運ぶのにかかる日数



- ① 都まで税を運ぶのに1か月以上もかかる地域があった。
② 魚・海そうなどは3日以内で届く地域から運ばれた。
③ 米・麦はすべて都から300km以内の地域から運ばれた。

77.2

答え **①**

誤答例 ③(14.1) (技能) ②

〔う〕 次のA・B・Cの人物について、記号と名前の正しい組み合わせを下の□の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。


A 	B 	C 
わたしは、農民たちを助けながら大仏づくりに参加しました。	わたしは、仏教の制度を整えるために中国から来ました。	わたしは、むすめを天皇のきさきにして大きな力をもちました。

- ① A藤原道長—B鑑真—C行基 ② A藤原道長—B行基—C鑑真
③ A鑑真—B行基—C藤原道長 ④ A行基—B鑑真—C藤原道長

答え **④**

誤答例 ③(17.2) (知識・理解) ①

2 奈良時代のころの農民はどのような生活を送っていたでしょうか。次の資料①と資料②の両方を使ってくわしく説明しましょう。

<p>資料① 貴族の食事と農民の食事</p>  <p>貴族の食事 農民の食事</p>	<p>資料② さきもりの歌</p> <p>着物のすそにどりすがって泣く子どもたちを、わたしは、家においてきてしまった。あの子どもたちには母親がいないか、今ごろどうしているのだろうか。（『万葉集より』）</p> <p>さきもりという北九州の守りにあつた兵士がよんだ歌です。さきもりは、3年間の任期で、中国や朝鮮に対する守りにつきました。</p>
--	--

答え

正答(41.0)

(思考・判断・表現) ④

準正答(42.6) / 誤答(16.4) / うち無記入(7.1)

3 武士の世の中について、次の問いに答えましょう。
〔あ〕 源頼朝がおこなったことについて、次の①～③の中から正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① 武士として初めて太政大臣になり、大きな力をもった。
② 家来(御家人)を守護や地頭に付け、地方にも力がおよぶようにした。
③ 兄の命令で軍を率い、壇ノ浦の戦いで平氏をほろぼした。

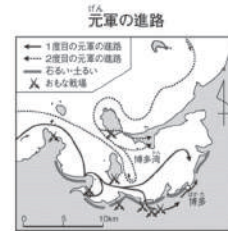
43.0

答え **②**

誤答例 ③(33.3) (知識・理解) ①

〔い〕 次の資料A・Bからわかることについて、下の①～⑤の中から正しいものを二つ選んで、その番号を書きましょう。

資料A



資料B

元軍と戦う竹崎季長



- ① 元は、アジアを中心に広大な領土をもっていた。
② 元との戦いの後、御家人は満足なほうびをもらえなかった。
③ 元軍は集団戦法で相手と戦い、火薬兵器を使用した。
④ 元軍はあらしにおそわれ、大きな損害を受けた。
⑤ 幕府は海岸に沿って石をい・土を築き、守りを固めた。

答え **③** **78.2** **⑤** **76.5**

誤答例 ②(19.8) (技能) ①④

〔う〕 足利義政が建てた銀閣の東求堂にみられる書院造について、次の①～③の中から正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① 広大な庭や池をもつ、貴族のやしきによくみられたつくりである。
② 2・3層に金箔がはりつめられた、ごうかなつくりである。
③ ふすまやたたみ、障子など現在の和室につながるつくりである。

89.3

答え **③**

(知識・理解) ③

誤答例 ②(6.5)

4 戦国の世から江戸幕府が開かれたころについて、次の問いに答えましょう。
〔あ〕 豊臣秀吉がおこなった刀狩の説明について、次の①～③から正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① 百姓から刀や鉄砲などを取り上げ、農業などに専念させた。
② 百姓から刀や鉄砲などを取り上げ、キリストの像をつくった。
③ 百姓から刀や鉄砲などを取り上げ、外国に売り、資金を増やした。

答え **①**

90.3

(知識・理解) ③

誤答例 ②(5.0)

問 題

(い) 戦国の世に活躍した3人の武将について、次の①～③から正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① 織田信長は、長篠の戦いに勝利し、安土城を築いた。
- ② 豊臣秀吉は、全国を統一して、征夷大将軍に任命された。
- ③ 徳川家康は、関ヶ原の戦いに勝利し、朝鮮に大軍を送りこんだ。

答え ① **63.6**

誤答例 ②(24.2) (知識・理解) ③

(う) 江戸幕府が行った大名の配置について、次の資料を見てわかることはどれですか。下の①～⑤の中から正しいものを二つ選んで、その番号を書きましょう。

おもな大名の配置

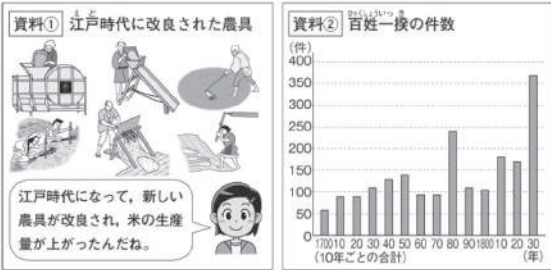


- ① 外様には、50万石以上の領地をあたえなかった。
- ② 北海道(蝦夷地)や沖縄県(琉球王国)にも、親藩・譜代を配置した。
- ③ 御三家は、それぞれが100万石以上の領地をもっていた。
- ④ 金山のある任渡や天皇のいる京都などの重要な都市は、直接治めた。
- ⑤ 親藩・譜代を江戸の近くに、外様を江戸から遠くに配置した。

答え ④ **81.2** ⑤ **86.9**

誤答例 ①(11.3) (技能) ②③

5 次の資料①と資料②の両方を使って、あなたが「なぜかな?」と思うことを書きましょう。



なぜ、
 答え _____ のに、
正答(68.5)

(思考・判断・表現) ①
 誤答(31.5) / うち無記入(8.5)

※都・道・府・県まで正しく書きましょう。

ア	山形県	47.5
イ	東京都	81.0
ウ	奈良県	95.4
エ	熊本県	59.0

(7は全て知識・理解) ①②③④

ア 誤答例 山形県以外の東北地方(28.1) イ 誤答例 東京都以外の関東地方(8.5)
 ウ 誤答例 無記入(2.2) エ 誤答例 熊本県以外の九州地方(21.0)

6 江戸幕府が大名を厳しく支配したことと関係が深い資料を、次の①～③の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。また、その資料からわかることを使って、選んだ理由をくわしく書きましょう。

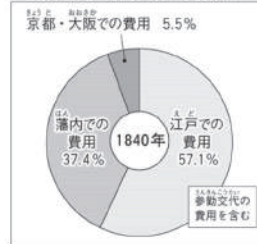
① 朝鮮通信使の行列



② 百姓へのおふれ書き

- 一 朝早く起きて草をかり、昼は田畑を耕し、夜はなををない、飯をのみ、油断なく仕事にはげめ。
- 一 酒や茶を買って飲んでほならない。
- 一 百姓は、先のことを考えず、秋になると米や雑穀をおしげもなく家族に食べさせてしまう。食べ物をたいせつにし、雑穀だけを食べるようにせよ。
- 一 着物には、麻や水綿を使うようにし、絹織物を用いてはならない。

③ 大名の支出の割合(加賀藩)



答え ③ **65.3**

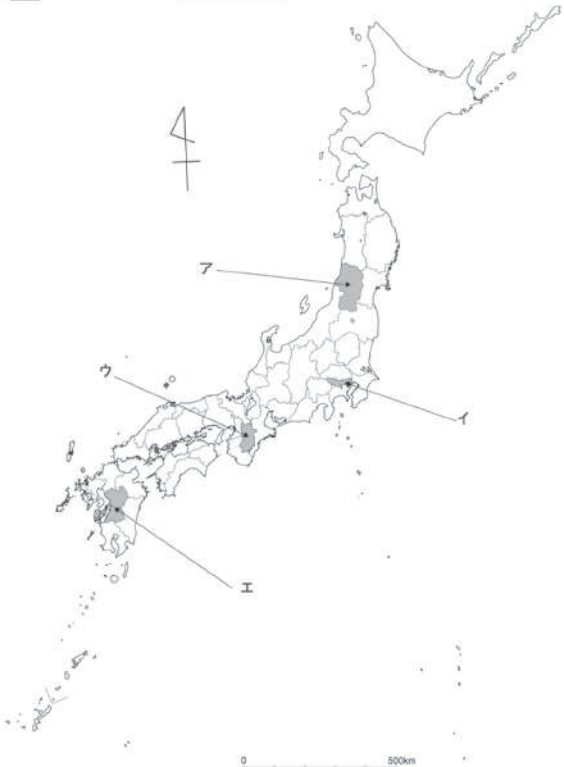
(思考・判断・表現) ①
 誤答例 ②(25.7)

答え _____

正答(33.5)

(思考・判断・表現) ②
 誤答(66.5) / うち無記入(12.1)

7 次の地図を見て、ア・イ・ウ・エの都道府県の名前を書きましょう。



1の考察

〔あ〕は、中臣鎌足と共に天皇中心の国づくりを進めた中大兄皇子を問う知識・理解の問題で、正答率は75.6%であった。主な誤答は、②の聖武天皇で、12.7%であった。中大兄皇子、聖武天皇の業績を区別して、十分に理解できていなかったためであると考えられる。

〔い〕は、各地の特産物と税を都へ運ぶ日数を示した資料を活用して、都まで税を運ぶ負担を問う問題で、正答率は77.2%であった。主な誤答としては、③の14.1%であった。これは地図の縮尺を用いて距離を調べたり、地図中の米・麦を表す記号を見落とすことなく見つけたりする技能が不十分であったためであると考えられる。

〔う〕は、奈良時代や平安時代に活躍した3名の人物を答える知識・理解を問う問題で、正答率は77.6%であった。主な誤答としては、③の17.2%であった。これは、行基と鑑真を入れ替えた選択肢で、行基と鑑真のそれぞれの業績を十分に理解できていなかったためと考えられる。

2の考察

「貴族の食事と農民の食事」「さきもりの歌」という2つの資料を使って、天皇や貴族が政治をしていたころの農民のくらしの様子を記述させる思考力・判断力・表現力を問う問題であった。正答が43.8%、準正答が35.6%、誤答が20.6%、うち無記入が8.2%という結果であった。

	解答の分類	割合(%)
大問2	正答	43.8
	準正答	35.6
	誤答(無記入含む)	20.6

(上記の結果は、何校かを抽出して追跡調査したものです。)

特徴として準正答の多さが挙げられる。「食事」の資料しか使っていない解答や、二つの資料を使っているものの、兵役を強いられていたことに触れられていない解答が当てはまる。児童は農民のくらしが貧しいものであったというイメージをもっているが、兵役などの側面についてはイメージをもっていないと考えられる。授業を行う際には、食事だけでなく税や兵役など様々な側面から農民の生活について捉えられるような指導が必要だと考えられる。

3の考察

〔あ〕は、源頼朝の業績について選択する知識・理解の問題で、正答率は43.0%と低い結果であった。誤答は、①平清盛23.6%、②源義経33.3%と分散している。これは、同じ時代で大きな力をもった武士である平清盛や、源平の戦いで功績のあった源義経と混同しているためと考えられる。言葉や人名だけではなく、地図など位置や空間的な広がりや深められる資料を活用しながら、人物と歴史的事象が確実に結びつくような学習活動が望まれる。

〔い〕は、元寇とそれに対する幕府や御家人についての5つの文章を、資料と関連付けて正しいものを2つ選択する問題である。正答率はそれぞれ78.2%と76.5%で概ね資料を読み取れている。誤答で最も多かったものが、「元との戦いの後、御家人は満足なほうびをもらえなかった。」で、19.8%であった。これは、資料にある「竹崎季長」という人物に関する知識に導かれたものと考えられる。

〔う〕は、室町文化に見られる書院造について知識・理解を問う問題で、正答率は89.3%と高く概ね理解できている。

4の考察

〔あ〕は豊臣秀吉が行った刀狩について知識・理解を問う問題で、正答率は90.3%と高く概ね理解できている。

〔い〕は戦国時代の三武将について知識・理解を問う問題で、正答率は63.6%とやや低い結果であった。誤答は③が11.9%であったのに比べて、②が24.2%であった。三武将の功績についての理解が不十分であり、それぞれの知識が混同していることがうかがえる。

〔う〕は、江戸幕府が行った大名の配置についての資料を読み取る技能を問う問題で、正答率は⑤が85.5%であったのに比べて、④が82.6%であった。概ねよく理解できているが、佐渡や京都がもつ地理的な重要性について、資料から読み取りきれていないことが考えられる。

5の考察

「江戸時代に改良された農具」に関する写真と「百姓一揆の件数」に関するグラフの2つの資料を見比べて、「なぜかな？」と思うことを記述する思考力・判断力・表現力を問う問題であった。

	解答の分類	割合 (%)
大問 5	正答	69.1
	誤答	30.9

(上記の結果は、何校かを抽出して追跡調査したものです。)

正答率が69.1%と7割近い児童が2つの資料を関連づけて、なぜ疑問を作ることができた。一方誤答の内訳を見ると、1つの資料のみに着目して解答しているものが5.4%。資料の読み取りが正しくできていないものが6.8%。資料以外に考えが及んでいるものが2.0%。論述が明確でないものが5.1%。無記入のものが11.6%であった。資料の読み取りはできる児童が多いと考えられる。特に今回の問題では棒グラフが使われていた。そのため、これまでの学習の積み重ねによりグラフを読み取る力がついているものと考えられる。しかし無記入の割合も高いため、資料を読み取り文章などで表現する活動を授業内で継続して行っていくことが大切であると考えられる。

6の考察

江戸幕府による大名の支配について、思考力・判断力・表現力を問う問題であった。関係の深い資料を選ぶ⑭の正答率は65.3%であった。誤答として多かったものが「百姓のおふれ書き」で、25.7%であった。これは、問題文の「厳しく支配した」という言葉のみに

	解答の分類	割合 (%)
大問 6	正答	32.5
	誤答	67.5

(上記の結果は、何校かを抽出して追跡調査したものです。)

着目して選択したものとして考えられる。また、幕府が参勤交代などで各藩に多くの出費を求めたことを「支配」としてとらえられていなかったことも考えられる。したがって、幕府が「大名」や「百姓」など、それぞれの身分の者たちをどのように統制していったのか、深く理解する必要が

ある。

選んだ理由を問う⑮の正答率は32.5%と⑭の正答者の約半数であった。誤答のうち61.7%が「論述が明確でないもの」となっており、やはり上記のように幕府による参勤交代の政策とその効果が大名の支配とどう関わっているかについて深く理解できていないことが考えられる。

7の考察

都道府県名を問う、知識・理解の問題であった。正答率が、アの山形県は47.5%(52.7%)、イの東京都は81.0%(74.2%)、ウの奈良県が95.4%(94.8%)、エの熊本県は59.0%(71.0%)であった。()内は、昨年度の5年生の問題で出題したときの正答率である。正答が含まれている地方の県名を記入した割合は、アの山形県以外の県名は28.1%、イの東京都以外の県名は8.5%、エの熊本県以外の県名は21.0%であった。都道府県のある地方は概ね理解しているようであるが、正確な位置までは把握できていない。また、昨年度の正答率と比較してみると、奈良県は0.6ポイント、東京都は6.8ポイント上がっているが、山形県は4.8ポイント、熊本県は12.0ポイント下がっている。1年の間に都道府県の名称と位置にふれることで習得していくはずだが、山形県と熊本県の正答率が下がっているという結果から、日頃から都道府県の名称や位置を意識していないと考えられる。社会科の授業以外でも教師が学校生活の中で意識的に地図帳を活用していかなければならないと考える。

【総括】

今回の結果から、歴史上の人物や、言葉といった知識を断片的に習得しているものの、それらに関連付けて思考・判断・表現する力に課題があると考えられる。したがって今後は、習得した知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力を高めることが大切である。そのために、社会的事象の見方・考え方が働くような資料(地図や年表、写真など)を提示したり、「問い(めあてや学習問題)」を設定したりしながら学習展開をすることが求められると考える。

都道府県については、奈良県から遠く離れている地方の位置や名称の理解が不十分であった。また、昨年度よりも正答率が低下しているところから、歴史学習においても、地図帳を積極的に活用し、社会的事象と地理的な位置との関係を理解できるように学習を展開することが求められると考える。